

# びとう和広後援会ニュース

2016. 1. 1

第 41 号

発行責任者  
小倉義彦

安心と元気の  
三田めざして

今年も精一杯  
頑張ります！

新市長のもと  
新コースで開催の  
マスタースマラソン  
新位置でのスタート

12/20

明けましておめでとうございます。

後援会の皆様には、日頃より力強いご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年も異常気象が続き、広範囲の水害など多くの被害があり、今でも避難所生活の方が多くおられます。今年こそ平和で穏やかな年になりますよう心からお祈りいたします。

昨年の国会では、**集団的自衛権の拡大解釈ははじめ安保法案が強行可決**されました。世界的なテロや紛争もあり、日本だけが無関係でいることは難しい時代ですが、日本が巻き込まれやすいことは確実です。

**改正労働者派遣法も強行可決**されました。派遣労働者の教育強化は評価できますが、全て派遣会社への押し付けで、生涯派遣のままの仕組みが進んでいると思います。

今年の参議院選挙で自・公の絶対多数が実現すると、憲法改正(悪)や一層の格差拡大に向かっていくのかと考えると、本当に将来が不安です。

三田市におきましては、森市長就任から5ヶ月、地域戦略室の立上げ、来年度組織の構想、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」など、「子どもに夢を、高齢者に安心を、地域に元気を」の基本政策のもと、「日本一住みたいまち三田」に向け、着々と進められ、その成果を期待しております。

**12月議会で**そのための課題確認として、**少子化対策・企業誘致・健康寿命・公文書取り扱いについて一般質問**しました。特に若者の安定雇用がこれからの三田の基礎と考えています。(詳細中面)

また、一昨年10月より市議会に発足した**政策研究会の活動として、いよいよ条文の編集に入り各会派からの課題など議論を進めています。**

後援会活動も、三菱電機関連労組や連合加盟団体のご協力を戴きながら、市政報告会・市政懇談会など進めてまいりました。また、今年**はオータムフェスティバルが10月3日に開催され、びとう和広後援会も協賛し、例年同様、「くじ引き」コーナーを開設**しました。多数のご来場をありがとうございました。

これからも、皆様の声をお聞きし、市民サービスの向上、安心安全・活気活力のある三田に向け、精一杯頑張ってお参ります。皆様におかれましては、一層の力強いご支援・ご協力とご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお祈りいたします。



三田市議会議員

かずひろ  
びとう 和広



## びとう和広の活動日記

今年 10 月からの活動の一部をご報告いたします。

三田市バレーボール協会  
設立40周年記念行事  
午前は式典と中垣内氏  
の講演会。500人のご参  
加を頂きました。



協会長として  
参画・ご挨拶 10/8

元全日本主将  
中垣内氏の教室



10/8

三田市バレーボール協会  
設立40周年記念行事  
午後はバレーボール教  
室で、小学生100人・中  
高生70人・保護者見学2  
00人と大盛況でした。

三田市初議会意見交換会  
初の試みで、市民の方に  
3つのテーマでご意見を頂  
きます。議員が1グループ  
2人ついて、司会と記録し、  
発言をまとめ報告します。



議会開催の  
意見交換会 10/17

北伊丹地区労組  
ファミリー行事に  
参加・ご挨拶



11/18 & 11/28

北伊丹地区労組  
ファミリー行事(しい茸狩  
り&ニジマス釣り&バーベ  
キュー)に参加し、ご挨拶。

三菱電機三田製作所  
「音の日」記念行事  
エジソンの蓄音機発明の  
日に関連して、オーディオ  
を見直す行事を、地元中学  
生を招待して開催。  
学校選定や日程調整、ご  
挨拶を行います。



12/16



12/20

マスターズマラソン  
三田の冬の風物詩、今回  
はコースを変え、学園を走  
ります。  
写真は出走前の労組のメ  
ンバーと記念撮影。

## 2015年:三田市の事業

月: 概要

- 1月: 新庁舎(本庁舎)での業務開始
  - 4月: 市立ひまわり特別支援学校を開設
  - 4月: 市役所1階ロビーに障害者施設のアンテナショップ「キラリ」がオープン
  - 4月: 消防署東分署での消防活動開始
  - 4月: 地方創生先行型事業
    - ・若い世代対象の住宅取得助成や家賃補助、
    - ・市内で出産・子育て支援、
    - ・既存住宅を活用事業を展開)
  - 4月: 高齢者大学新名称「さんだ生涯学習カレッジ」対象年齢を55歳以上に引き下げ
  - 4月: 学校給食に母子茶、月1回提供。パッケージに市内小中学生のデザイン採用
  - 4月: 転入世帯に三田米の配布  
三田米セット(2合の真空パックを3品種)のお米交換券の配布 ※3品種は、ひのひかり、こしひかり、さんキラリ(どんとこい)
  - 7月: 中学生の医療助成拡充  
0歳~中学3年の入院・通院の医療費全額無料
  - 7月: 「さんだ健康医療相談ダイヤル24」を開設  
24時間365日健康医療相談窓口を設置
  - 7月: 都市計画マスタープランの改定  
都市計画法施行条例の制定
  - 8月: 森哲男市長就任
  - 8月: 協働のまちづくり基本指針を策定
  - 8月: 被爆アオギリの植樹(戦後70年の記念樹)  
三田市総合福祉保健センター西側、戦後50年記念モニュメント「平和の希求」横、広島市寄託「被爆アオギリ」の苗木を植樹
  - 8月: 「プレミアム付商品券」の発行  
地域消費喚起・生活支援型事業として
  - 10月: 市2号・3号庁舎での業務開始
  - 10月: 三田版総合戦略への取り組み推進
    - ・市独自の地域戦略の検討や実現を推進
    - 新たに地域戦略担当理事と地域戦略室を配置
    - ・地方創生の推進組織体制  
⇒市長を本部長とする「地域戦略本部」を発足
    - ・有識者会議「三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会」を設置
  - 10月: マイナンバー制度がはじまる  
-住民票を有する人に12桁のマイナンバー(個人番号)の通知開始
- 通年: シティセールスの推進
- ・平成26年9月リニューアルのふるさと納税寄附金額が2億円超え
  - ・27年度は市民がシティセールスを企画する「三田市PRサポーター・プロジェクト」始動
  - ・「サンタ×三田プロジェクト」  
CM作成などの市民と一体となって展開

### 2016年の予定...市長のプロジェクト8

- 三田未来塾
  - お出かけサポート
  - 安心ケアシステム
  - 地産地消レストラン
  - チーム三田のシティセールス
  - 若者が集うまち
  - 緊急災害情報システム
  - 切れ間の無い子育て支援
- ...予算案が提示されるのは2月中旬の予定です。

# びとう和広の一般質問

問:質問、  
市:市答弁  
び:びとう

12月議会での一般質問です。

## 1. 市の少子化対策

問: **若者の安定雇用と結婚支援**

市: 若い世代の定住・転入の促進は不可欠であり、結婚・出産・子育てから教育・就労に関する環境を整え、住みたい・住み続けたいと実感できることが重要、経済基盤の安定が、若者の就労・結婚・子育てという希望の実現に結び付くものであると認識している。

問: **安心の出産・子育て**

市: 妊娠期・出産・産後など、子どもの成長の節目に応じた子育て支援に取り組んでいる。引き続き、平成27年4月に策定した「三田市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、待機児童の解消をはじめ子育てがしやすい環境づくりを推進していく。

問: **安心の医療体制**

市: 三田市民病院では、2015年4月から常勤の小児科医が1名となっており、応援医師の派遣による体制は整えているものの、小児救急は対応が出来ていない状況である。周産期医療においては、産婦人科医4名を確保しており、分娩は可能な体制だが、新生児の医療は小児科医の分野であるため、大学医局等からの応援により診療体制を維持するとともに、休日応急診療センターの運営で、小児科・内科を中心とした診療を行っている。

平成27年7月から「さんだ健康医療相談ダイヤル24」を開設し、病気や怪我のアドバイスを行っている。

神戸市と三田市で医療連携圏域の設定し、県政要望をはじめ大学医局に対して精力的に招聘活動を行い、小児及び周産期医療体制の充実強化に努める。

## 2. 企業誘致の促進

問: **県「多自然地域へのIT関連事業所進出支援」制度**

市: 県の制度は、三田市は対象地域外で関係法令の制約があるが、今後の地域産業の活性化において、ITの活用は大変重要で、雇用の創出や空き店舗の活用といった好循環が期待できる。起業・創業する人を本市に呼び込み、豊かな自然、大阪・神戸近郊という本市の利点を活かすライフスタイルの発信にもつながる。

問: **市独自の補助制度**

市: 企業誘致を促進する優遇制度を設け、ニーズに即した見直しや拡充を行い、順調に企業進出が図れている。今後、激しくなる都市間競争を考え、起業・創業を支援する体制の構築も重要であると考えている。現行制度を維持し、大学等との連携による新たな魅力づくりについても研究する。

問: **農業系起業の補助制度**

市: 6次産業化の取り組みは、農業者の所得向上と雇用の拡大、更には特産品を通じて、三田の「食」と「農」の魅力を広く全国へ発信でき、市内商工業や観光業等を含めた地域産業全体の発展に大きく寄与するものと考えている。今後、市外から意欲ある起業者を積極的に呼び込み受け入れていくための方策や就農や農業の活性化に感心を持つ若者等を対象として、三田で安定的に安心して起業活動に取り組めるよう、総合的なサポート支援制度の創設に向けて検討する。

## 3. 健康寿命日本一に向けた取組

これから急激な高齢化を迎える三田市において、高齢者が健康で生きがいを持って暮らせる仕組みが必要である。そのためにも、市は健康促進事業をお金をあまりかけずに確実に効果の出る政策を進めなくてはなりません。今回の質問はその第一段階です。

厚生労働省の平成22年の統計で、平均寿命と健康年齢の差は、男性9.13歳 女性12.68歳。この期間は医療費や介護費がかかっていることとなります。

2015年秋、三田市の高齢化率(総人口に占める65歳以上人口の率)がついに20%を超えました。県下で最も若い三田市も、これから毎年1%以上のペースで高齢化が進みます。

急激な高齢化により、医療費の増加や国民健康保険の財政破たんも視野に入れた取り組みが必要だと考えます。認知症の対応も、老老介護や認知介護、さらには独居対応など見守りが必要となります。今こそ、高齢者の健康での長寿を支援することが、財政の負担を下げるとともに、市民交流を促進し、結果的に、急激な高齢化に対応できる方法と考えます。

問: **三田市の現状把握と目標**

市: 第2次健康さんだ21計画及び三田市食育推進計画に基づき、各種健康教室や総勢213名の各自治区・自治会の健康推進員と連携した地域での健康づくり活動を展開している。

問: **健康長寿に向けた提案**

**運動・食事・睡眠・行事のあり方**

市: 今年度からモデル事業として実施している「いきいき100歳体操」をはじめ、様々な健康づくり活動を今後においても展開する

び: 健康寿命は長野県・愛知県・静岡県が進んでいます。長野県では、各市が競って健康施策を推進し、例えば3分ごとに早歩きと普通歩きを交互に30分以上を目標とした「インターバル速歩」を開発したり、各種啓発事業を実施しています。

愛知県には、国立長寿医療研究センターが複数の市にあり、その一つ、高浜市では活動量計(記録付きの万歩計)を対象者に配布し、市内にポイントを設けて各所でデータチェックができるようにしています。

三田市は、事業をやっていないわけではないのですが、それぞれが別々に行なうため、その人の継続や動機付けにつながりにくいのが実情です。

初期投資は必要ですが、各人に寄り添った運営が、確実に効果があり、結局費用抑制につながり、将来的な市の負担軽減になることを、訴えています。

## 4. 公文書の取り扱い

問: **公文書に使用できない「消せるボールペン」等の周知**

市: 職員には、使用禁止を周知徹底しているが、市民の皆様には、これまで周知は行っていない。悪用も含め、周知を図っていく。

問: **電子化と原紙保管の取扱いと対策**

市: 各部署に設置する複合機を用いてスキャナで取り込むなど、内部文書を中心に公文書の「電子化」による保管を進めている。

災害時のデータ保管や二重化など、まだまだ危機管理における体制整備ができていないので、今後は、本性的な問題等を含め、他市の事例を参考に基準を検討したい。

## びとう和広後援会より

びとう和広は「皆様との対話を大切に」をモットーに、

10月: 支援労組挨拶訪問

10/3: 三菱電機(三田)オートムフェスティバル  
協賛し、後援会「くじびきコーナー」を開催

10/9: 三菱電機三田製作所構内市政報告会  
(テーマ: 議会の視察)

12月: 支援労組挨拶訪問

12/3: 三菱電機(三田) 班長会 懇親会

12/19: 三菱電機(三田) OB会 「みつ輪会」 懇親会  
毎月2回の市政相談会

等の後援会活動を続けています。

今年の前半は

1/5: 菱和会館鏡開き

2月: 支援労組挨拶訪問

2/20: カニツアー...三菱電機労組(三田)との共催

3月 三菱電機三田製作所構内市政報告会

4月: 支援労組挨拶訪問

4月 びとう和広後援会 総会

等の後援会活動を予定しています。

また、空いた時間には、後援会の皆さまのお宅訪問を中心に活動を続けてまいります。皆様のご支援・ご参加・ご協力のほど、よろしくお願い致します。



## 参議院選挙に向けて

今年7月には参議院議員の半数が改選となります。

びとう和広は、兵庫選挙区では民主党参議院議員の現職「水岡俊一」、比例区では三菱電機労組出身「加藤敏幸」参議院議員の後を受け、初挑戦の「矢田わか子」を精一杯応援して参ります。



参議院議員

# みずおか 俊一

育ちゆくいのち、はたらくいのちを守る。

- ◆生きがいをもって安心して暮らせる社会を!
- ◆未来を担う子どもたちに豊かな明日を!
- ◆あらゆる差別を許さない公平・公正な社会を!

【略歴】奈良教育大学卒

1956年6月兵庫県豊岡市に生まれ。59歳

1980年4月兵庫県教職(三木市志染中、星陽中学校、インド・ニューデリー日本人学校、三木市星陽中学校)

1990年度 兵教組東播地区専従役員

1992年度 兵教組本部執行委員

1995年度 兵庫県学校厚生会(次長)

2000年度 兵庫教育文化研究所事務局長

2004年度 兵庫教育文化研究所副所長

民主党兵庫県連政治改革推進委員長

第20回参議院議員選挙(兵庫県選挙区)

に初当選～現在2期目

2011年9月～2012年10月 内閣総理大臣補佐官

現在 神戸市西区在住 妻、一女、一男



あなたと動けば、未来は変わる。

## 矢田わか子、3つの「やります!」

1. 国 <「誰もがイキイキと働ける社会」づくりに挑戦します!
2. 地域 <「将来にわたって暮らしを支える社会」を実現します!
3. 家庭 <「子どもを健やかに育てられる社会」をつくります!

電機連合組織内公認候補

や た

# 矢田わか子

【趣味】料理・ガーデニング・読書。

【好きな言葉】「意志あるところに道はひらける」。

【略歴】大阪府立寝屋川高等学校卒

1965年9月大阪府大阪市生まれ。50歳

1984年 松下電器産業(株)[現パナソニック(株)]入社

2000年 松下電器産業労働組合 中央執行委員

2014年 パナソニックグループ労働組合連合会

副中央執行委員長(現在に至る)

電機連合 男女平等政策委員長/関西学院大学 非常勤講師などを歴任

現在 大阪府寝屋川市在住 夫、一男の3人家族

## 後援会会長の挨拶

新年あけまして、おめでとう御座います。

後援会会員の皆様方に於かれましては、日頃より力強いご支援・ご協力を賜り、誠に有難う御座います。心より厚くお礼申し上げます。

『びとう和広』は、3期目最後の年を迎え、森市長に三田の課題を提示し、働く環境整備と地域創生を図り、皆様の声を市政に反映するよう頑張っています。

後援会といたしましては、各事業を通して、びとう和広と後援会各位との懇親を深め、後援会の輪を広げるため、充実した後援会活動をめざしてまいります。

『びとう和広』は、これからも、より多くの皆様のお声を頂戴し、問題解決に向け、全力で活動する所存で御座います。何卒、皆様の倍旧のご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

びとう和広後援会会長

小倉 義彦

## 【びとう和広 後援会 連絡先】

<連絡先> 〒669-1513 三田市三輪2丁目3番33号  
三菱電機労働組合三田支部気付  
Tel: 079-563-1860 Fax: 079-563-5093

<自宅> 〒669-1537 三田市西山2丁目11番13号  
Tel: 079-562-8653, Fax: 079-562-0730

<電子メール> [bit@venus.dti.ne.jp](mailto:bit@venus.dti.ne.jp)

<ホームページ> <http://www.bit-kazuhiro.com>